



Power BI

ゼロから学ぶPower BI

Power BIならではの機能と活用方法

はじめに

昨今、「Power BI」というBIツールの導入を検討する企業が増えています。

しかし、あまり製品知識が無い企業からするとどのようなツールなのか疑問も多いでしょう。

一体、「Power BI」は企業の抱えるどのような課題を改善できるのでしょうか？

本記事では、社内のデータを可視化・共有できる「Power BI」について、テクバンの導入支援サービスについて紹介していきます。

CONTENS

Power BIでできること

BIツールについて	3
Power BIの特徴	4
Power BIのメリット	6

様々な部署の課題改善が可能

データ分析の労力を軽減	8
導入効果	9
導入にあたり知識も必要に	10

Power BI導入支援サービス

テクバンのPowerBI導入支援サービスについて	12
こんな方におすすめ	13

BIツールについて

BIツールとは、会社に蓄積された多種多様なデータを集積・分析し、その結果から得られた知見を活かし、現場や経営の意思決定をサポートするツールです。

さらにBIツールは、様々なデータソースに対応しているため、社内に分散して管理されているデータを統合し分析することも可能です。

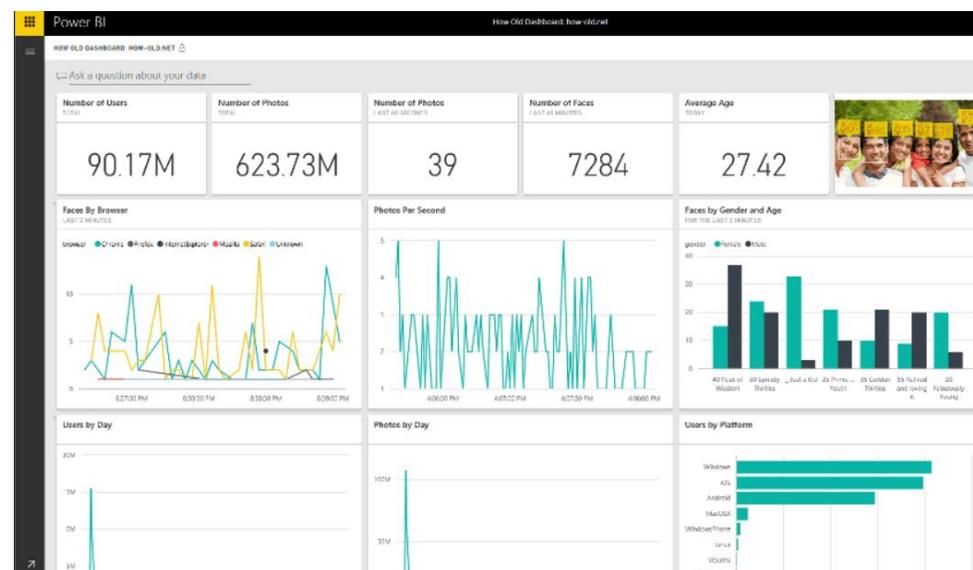
その中でも「セルフサービスBI」が注目されています。セルフサービスBIとは、自身で分析やレポートの作成ができるBIツールのことを指します。そして、Microsoft Corporationが提供するBIツールが、Power BIです。データの分析・可視化・共有が可能になり業務の効率化が図れます。

Power BIは「Power BI Desktop」、「Power BI サービス」、「Power BI モバイル」という3つのツールから構成されており、運用に応じて必要なツールを活用することで、社内データの分析・共有が可能になります。

※Power BI Desktop (Windows Desktop) … 分析環境の構築／分析業務を担当する (レポートを作成する)

※Power BIサービス (クラウド) … 分析環境の共有／複数人での分析業務／スマホアプリ用の画面の作成 (ダッシュボードで共有)

※Power BIモバイル (スマホアプリ) … スマホアプリでの画面閲覧／アラートルールの設定を担当



データ分析の労力を軽減

業務内容や規模が異なる様々な事業部でPower BIを活用することが可能

各事業部で抱える課題は違いますが、Power BIにより担当者のデータ分析・可視化に要する時間が大幅に削減でき、労力を軽減できます。

さらに、多忙な担当者に専門的なITリテラシーがなくても活用できることも利点です。

そして、Power BIの効果をより高めるには、企業内の各部署に分散されている最新のデータを集約することが重要です。

ERP（Enterprise Resource Planning）といった統合アプリケーションを導入し、部署ごとのシステムが連携されることによりPower BIの効果を高めることが可能です。

